

アルファ、コスト競争力強化、メキシコ生産拠点拡充、キーセット、米から移管

2010/09/10 日経産業新聞

自動車用ロックシステム大手のアルファはメキシコの新工場を建設する。既存工場の隣接地を取得し、延べ床面積で4530平方メートルの新工場を建設する。2011年3月の稼働を目指し、米国工場からキーセットの生産を移管する。投資額は約300万ドル（約2億5000万円）。製造コストの安いメキシコを北米や中南米への輸出拠点と位置付けて、コスト競争力を高める考えだ。

メキシコ法人のアルファ・ハイレックス（ケレタロ州）の生産拠点を増強する。メキシコでは現在、自動車用ドアハンドルを生産している。新工場の建設により、北米で生産しているキーセットを順次移管する。

新工場の年産能力は150万セットで、年間売上高で4000万ドル前後を見込む。新工場の稼働に合わせて従業員数を10年3月末時点より3割強多い620人程度に増やす計画だ。

米ミシガン州にある既存工場は設計や営業部門を残すほか、北米の完成車工場にキーセットを供給する物流拠点として活用する。

メキシコでは主要取引先の日産自動車は11年から小型車「マイクラ」（日本名マーチ）など低価格の小型車を年間30万台規模で生産する見通し。独フォルクスワーゲンなど欧州勢も北米や市場成長の続くブラジルなど中南米向け完成車の生産拠点として、メキシコで生産能力を増強している。アルファは今後も売り上げの拡大が見込めるとみて新工場を建設する。

人件費や原材料費が安いメキシコに拠点を集約し、製造原価を引き下げる効果も見込む。新興国向けの低価格車開発にあたり、完成車メーカーから部品価格の引き下げ要求が強まるとみて、生産拠点を再編してコスト競争力をつける狙いだ。